

2017年アセンブリⅢ 「薬剤」解説資料

<薬剤>

◎処方薬

薬 剤 名	効 能	用 法・用 量	使用上の注意
メマリー錠 20mg (メマンチン塩酸塩錠 20mg)	中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	1日1回夕食後、 1回1錠 *1日1回、1回5mgから開始、 1週間に5mgずつ増量、維持量として 1日1回、 1回20mgを経口投与	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者、家族等の管理の下で投与すること ・下記の症状*1があらわれることがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと *1：痙攣、失神、意識消失、精神症状（激越、攻撃性、妄想、幻覚、錯乱、せん妄） ・高度の腎機能障害（クレアチニンクリアランス値 30ml/min 未満）のある患者には、患者の状態を観察しながら慎重に投与し、維持量は1日1回、1回10mgとすること ・その他：めまい、頭痛、便秘、 食欲不振 など
リスパダール内用液 1 mg/ml、1ml (リスパリドン内服液 1 mg/ml、1ml)	統合失調症また、適応外使用であるが、認知症のBPSD(周辺症状：妄想やせん妄等)の対処にも用いられる	頓用 不穏時 1回1ml *1日2回、1回1mg を経口投与	<ul style="list-style-type: none"> ・腎障害のある患者では、本薬の半減期の延長及びAUCが増大することがある ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
バイスン錠 0.2 (ボグリボース錠 0.2 mg)	糖尿病の食後過血糖の改善	1日3回 朝昼夕食直前 1回1錠 *効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら1回量を0.3mgまで増量すること	<ul style="list-style-type: none"> ・食事療法・運動療法のみを行っている患者では、投与の際の食後血糖2時間値は200 mg/dl以上を示す場合に限る ・他の糖尿病薬との併用で低血糖があらわれることがある。 また、他の糖尿病薬を併用しない場

		ができる。	合でも低血糖が報告されている。 本剤は、二糖類の消化・吸収を遅延するので、低血糖症状が認められた場合には、ショ糖ではなくブドウ糖を投与するなど適切な処置を行うこと ・腹部膨満、鼓腸、放屁増加等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、持続する腹痛、嘔吐等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと
ノルバスク錠 5 mg (アムロジピンベシル酸塩錠 5 mg)	「高血圧症」に用いる	1日1回朝食後 1回1錠 *通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5 mgを1日1回経口投与する。	・ほてり感(熱感、顔面紅潮等)、眩暈・ふらつき、頭痛・頭重、動機 等

[現在の処方薬]

- ・メマリー錠 20 mg (メマンチン塩酸塩錠 20 mg)
1日1回 1回1錠 夕食後
- ・リスパダール内服液 1 mg/mL、1 mL (リスペリドン内服液 1 mg/mL、1 mL)
1回1包 (1日1包) 1日1回 朝食後
- ・ボグリボース錠 0.2 (ボグリボース錠 0.2 mg)
1回1錠 (1日3錠) 1日3回 朝昼夕食直前
- ・ノルバスク錠 5 mg (アムロジピンベシル酸塩錠 5 mg)
1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後

[5年前の処方薬]

- ・ベイスン錠 0.2 mg (ボグリボース錠 0.2 mg)
1回1錠 (1日3錠) 1日3回 朝昼夕食直前
- ・ノルバスク錠 5 mg (アムロジピンベシル酸塩錠 5 mg)
1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後